
KAGUYA **時は何時頃？**

鎌堂成久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

KAGUYA

時は何時頃？

【Nコード】

N9404A

【作者名】

鎌堂成久

【あらすじ】

「かぐや姫」に出てきた名前だけのキャラクターたちが現代で大暴れ！しかし、かぐや姫の名を襲名している少女・天草赫耶と帝が前世と言われて混乱する主人公・上天多斗知。赫耶がある日、斗知の通う私立高校に編入してきて、岬奈加（中将）や坂下薫（女中！？）、本田タキ（大伴の大納言！！）も交えて何がなんだかわからない！不思議な現代ラブコメファンタジー。

あーくーとーわんっ！『やっぱ、出会いつしょ』

俺は上天多斗知。年齢は15歳。歳若き青春真っ只中の高1男子。俺が自慢できるのは、難関私立中学に受かってそこから他の難関高校を無駄に受験をした、ということ。その詳細はというと

それもまあ、内申書もはつきり言って書かれた内容はゴミ箱寸前かそれから先の「ご愁傷様」くらいの紙クズだった。

つつても「私立」だから裏からいくらでも手を回して札束積みめば入れるだろう。しかーし、俺の家というのも裕福でもないからやっぱり「ただの紙」だけが道だったらしい。

そうやって見事に受かったのが自慢なわけだが。

あと、俺がこの15歳の8月17日付けまでの「恥ずかしいエピソード」の極めつけは、「俺の前世がかぐや姫の帝」ってヤツだ。

「むむっ！ これはすごい……あなたは帝だ！」

なんとなく、ただ暇だったから道端の占い屋に入ってみた。そして、そんなことを言われる始末！ なんてありえなかったから、

俺も一言

「んなこと、ありえるかあっ」

と、卓袱台にも似た占い机をひっくり返した。

「なっ?! ワタシの占い信じないアルか?! 御代は要らねえ！ 他んところで占って来いアルね!!」

それまでのフードを下ろして全身を真っ黒いその装束、そして声もテナーくらいだったのに、あらわになった占い師のボデイはグラビア並だった。声もよく透るアルトボイスで俺は一瞬だけ呆けた。でも、やっぱり一瞬だけだ。

「んじゃあな、『アルアルちゃん』！」

「んだとお！ 首絞めたるアルか〜〜〜!？」

あー残念。それがいけないんだ……アルアルちゃんがモデルにならないのは、その言葉遣いのせいだよ……。

内心（たまげた、たまげたあ）と呟きながら早々にそこを立ち去った。

次に入ったところは若者に人気のあるという易者だった。

「どうも、よろしく……」

「君、さつき100m離れたところで言い争ってなかったかい？」

につこりと涼しいイメージの笑顔な青年占い師が言った。

「いや、俺はそういうつもりないんですけど？」

「じゃ、占いたい内容は？」

うまくもなにもなく、それは完全なるスルー。この世でもっとも酷い行動。それじゃまるで会話が成り立たないに決まっている。

それをやられたのは俺だけなのか……。いや、俺だけ、な、ハズ。

「今、物凄く疑っている、前世を……」

ドスを効かせて占い師を見つめると、すでに相手は俺の瞳の奥に茶色を買った瞳でなにかを悟った様子。

「帝、です。以上」

俺から視線を外してまた一度それを俺へと走らせた。なにか冷たいものを感じたのは気のせいかな？

「ちよっ！」

「はい、次の方どうぞ！」

無視です。ナイスな無視です。上手いです。冷たいです。占い師さん、いっぺん逝ってきましょう！

俺がその状況に実況を入れるとコレだ。

（ゼツテエ、占いなんてしない！）

そう決意したけれど、青年占い師は何かのトリックを使ってアルアルちゃんと俺の会話を知った。んゝ、間違いない。

例えば

「盗聴器をしかけてたので料金は要りませんからねゝ」と聴こえた。青年易者の……声

「って！？ やっぱり、そうじゃねえかー!!」

そのエセさに俺の形相は並みじゃない、大盛りでもない。鬼盛り

だ。

「鬼がたくさん盛られたやつですか？」

「なんで心の声が聴こえてるんだ!？」

美男と野獣なら占い師が美男で野獣が俺か。ってどんな話だよ、それ!？」

「ホモの話です」

一体何なのか占い師の耳が紅潮している。

「やっぱり話が噛み合わないえ!」

一連の会話を続けて聞いていると明らかにおかしい。

俺はその場所から早足で家へと向かった。

やっぱり毎日が災難ばかりなのが、俺なのか……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9404a/>

KAGUYA 時は何時頃？

2010年10月28日04時32分発行